



かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

令和8年9月30日

地域版

10月号



㊦感じる心たいせつに ㊧みんなの心、みとめあい ㊨せいっぱい ㊩やってみよう やりとげよう

みんな大切「生きているだけで100点満点」

校長 小林 京子

5年生の子どもたちが赤ちゃんをだっこしたり動きを見つめたりしながら、優しく穏やかな目で学習をしていました。本校の養護教諭が、毎年この時期の5年生に行う「いのちの授業」です。本学区に在住の5家庭の赤ちゃんに協力してもらいました。どんな風におうちの方が赤ちゃんの世話をしているのか気を付けているのか、また愛情を注いでいるのか、赤ちゃんのみならず、お父さんやお母さんにもご協力いただいての授業です。「かわいい」を連呼する子どもたちにわたしは「君たちもじゅうぶん可愛いよ。」「ほんの10年前、君もこんなふうに家族に見守られていたんだよ」そんな気持ちで5年生を見ていました。

この1週間前には、講師を招請し全校と保護者で「性といのちの学習」をしました。いのちの学習は、6年生は6年目、5年生は5年目ですが、同じ講師の先生を招いての指導はいずれも2年目になります。自分自身のプライベートゾーンをどう守り、どう大切にするのか発達段階に合わせた指導です。子どもたちの様子を見ると、昨年度の学びも積み重なっているようでした。プライベートゾーンは、友達、親しい大人にも見せたり触らせたりしないこと。「きみたちはシャボン玉（この距離をバウンダリーという）に包まれていると考えてみて。みんながそれに包まれているから、お互い人のシャボン玉を割ってはだめですよ」つまり、人の境界に入るとき「～していい？」と許可をとること、「いや」と拒否していいということです。ハグや握手、肩を組む行為などを例にゲームをしながら学びました。不愉快な大きな声もシャボン玉に入ってきます。まさに人権を大切にする学びです。

「誰もが大事。生きているだけで100点満点！」と講師の先生に励ましてもらった子どもたち。自分が生を受けたことを喜び、自分を大切に子どもに育ててほしいと思います。

「生きているだけで100点満点」なのは、上瀬谷小の子どもだけではなく、自分を大事にできると同時に、「他の人」も大事にできる子になってほしいと思うのです。学校でも地域でも様々な人が生活しています。大人でも子どもでも、日本人でも外国の人も障害がある人も病気をもっている人も、また性別に関係なく、どの人も「大事な人」のはずですから、誰の命も心も大事にしてほしいと思います。子どもたちには、「(誰にも) やさしくね」と話しています。また、他の人を大事にする窓口は、「あいさつ」が大事であることも。今の時代「不審者」や「危険を感じるもの(人)」から自分を守ることもしっかり教えなければなりません。知らない人を見たら悪い人と排除するような行為にも結び付けたくありません。困っている人かもしれません。日頃から、あいさつを通して、いろいろな人と温かく結びつきながらお互いを大切にしていきたいものです。

上瀬谷小学校では、お互いのバウンダリーを守りながら、それぞれが「生きているだけで100点満点」であることを意識させる教育を心がけていきたいと考えています。今年度も早いもので、前期が終了します。学力状況調査の結果や目に見えるあゆみの数値だけでなく、健やかに成長している子どもの姿をこれからも慈しみ、大切にしていきたいです。